

シリーズ

阿久比を歩く⑫



阿久比川の始流地点



田んぼの間を流れる阿久比川



川の中で首を伸ばすカメ

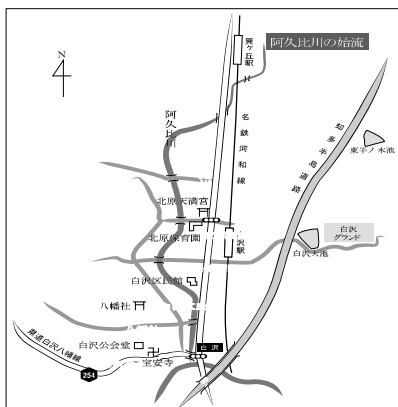
あぐいぶらり旅 川沿いを歩く

最初は始流を探し出すことを目的に出かけたので車で現場近くに向かった。川は目の前に見えているので、車から降りて地図を片手にこのあたりだろうと思いつながら阿久比町と知多市の境界に架かっている橋の欄干を見ると、大きな字で「阿久比川」と刻み込まれたプレートが埋め込まれてあった。間違いない。ここからが始まりだ。始流であることを断定し、友人と固い握手を交わす。

阿久比には、まちのほぼ中央を北から南に流れる川がある。阿久比川、十ヶ川、英比川と続く。皆さんはこの川が阿久比町のどの地点から流れが始まり、どの地点まで流れていくのか知っていますか。単純な発想から今回のぶらり旅を計画することにした。

まずは地図を広げて始流を探そう。阿久比町の最北端付近、名鉄翼ヶ丘駅東側であることが確認できた。その先の源流はどこなのか知りたいところだが、またの機会に調べることにする。

阿久比には、まちのほぼ中央を北から南に流れる川がある。阿久比川、十ヶ川、英比川と続く。皆さんはこの川が阿久比町のどの地点から流れが始まり、どの地点まで流れていくのか知っていますか。単純な発想から今回のぶらり旅を計画することにした。



草木川と合流する白沢の信号付近まで来て本日のぶらり旅を終了。始流が発見できたことが大きな収穫だった。田んぼの稲の穂も出始めている。次回、川沿いを歩く時には田園が黄金色に変わっているころだろう。稲刈り風景を横目にさらに南下を続けようと思う。

そんな苦勞して見つけ出したわけではないが、自然に顔がにやつく。（こぶしを作って小さくガッツポーズ。）

ここからが今回のぶらり旅の出発点。この場所から川の流れに沿って南の最終地点まで向かうことにする。川をのぞきこむと、カメが三匹首を伸ばして浮かんでいた。私たちが近づくと物音が聞こえたのか、一瞬のうちに潜っていった。

川は名鉄河和線の線路の下を流れ、そして県道名古屋半田線の下を流れて行く。県道を渡りきると景色がガラリと変わり、川の両サイドに田んぼが連なる田園風景が広がる。

シリーズ

阿久比を歩く⑬



橋のフェンスに付けられた南京錠



知多半島道路の下を流れる阿久比川



秋風になびく ススキの穂

あぐいぶらり旅 川沿いを歩く

空高く、青く澄んだ秋空。一週間前の夏空とは全く様変わり。心地よい、さわやかな風が気持ちいい。前回歩いた所（白沢の信号付近）から阿久比川沿いを歩き始める。

川は静かに、緩やかに流れている。楽しそうにウオーキングをしている人たちとすれ違い、軽く会釈を交わす。

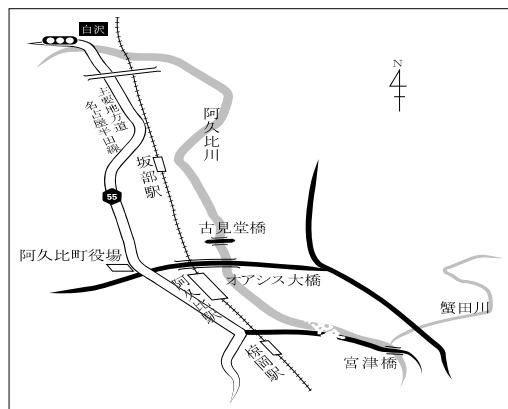
明日は中秋の名月（今年は九月十八日）土手にはススキの穂が風になびいている。夜になるとススキが月の光に照らされて、昼間とは違う別世界の光景が生まれる。草むらからは虫たちが、美しい音色を奏で、音楽会を始めることだろう。

古見堂橋で珍しいものを見つけた。橋のフェンスに南京錠が二カ所掛かっている。美浜町にある野間の灯台を囲むフェンスに、恋人たちが南京錠を掛けると永遠に幸せが続く「おまじない」があると聞く。阿久比でも恋人たちがこの場所でこっそりと錠を掛けたのだろうか。私が知らないだけで、隠れた名所なのかも。）

南下するにつれ川幅が広がる。私たちは水辺で羽を休めている。大きなコイは川の流れとは逆の方に上るようにして泳いでいく。

オアシス大橋をくぐり抜けたすぐ近くで、草の間から顔をのぞかせている彼岸花を見つけた。赤く立派な花だが、毎年この花を見ると楽しかった夏は終ってしまい秋が始まり、夏の思い出が少し遠いところへ行ってしまうような、物悲しい気持ちになる。（こんな感傷的な気分になるのは私だけだろうか。）

宮津橋まで歩いた。今日はここで終了。一時間ほど歩いたがほとんど汗もかかなかった。しかし、おなかには空いた。食欲の秋、何を食べてもおいしい季節。歩いた分しっかり食べて、次回のぶらり旅のために体力を付けようと思う。（中性脂肪が気になる今日このごろ。）



シリーズ

阿久比を歩く⑭



島田橋から見た阿久比川



川に飛来した鳥たち



宮津橋にある石碑

あぐいぶらり旅 川沿いを歩く

今回は宮津橋からスタートした。橋の下からは、川の流れる心地よい音が聞こえる。車が通るたびに音がかき消されてしまうのが残念だ。

阿久比川と十ヶ川が並行して流れる間の舗装されていない道を歩いた。歩きたびにバツタが飛び跳ねる。夏に見た色とは違い、緑色から茶色に変色している。

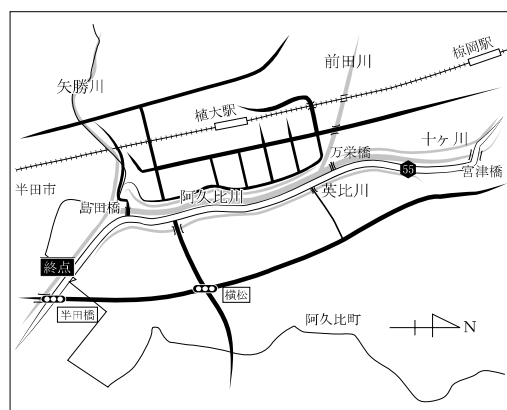
突然、西の空の方から「ドーン、ドーン」と花火の音が聞こえてくる。今日は秋分の日、「阿久比谷虫供養」が行われる。今年の当番、高岡地区の方角から聞こえてくるので、虫供養の始まりを告げる合図だろう。威勢のいい音とともに一斉にバツタが飛び跳ねた。

阿久比川は万栄橋付近で、前田川と合流し水量が増す。首の長い鳥たちが次々と川に飛来してきては、エサになる魚でも獲っているのだろうか、長くくちばしを川の中に入れて

いる。島田橋まで来た。川の流れは少し半田市に移り、矢勝川と合流して再

び阿久比町に戻る。

阿久比川沿いを歩くぶらり旅もそろそろゴールが近づいてきた。地図を広げながら交通量の多い県道を歩く。正面に半田橋が見えてきた。地図で見ると阿久比町と半田市の境界だと思ふ地点で足を止める。ここが多分間違いないだろうと、友人と確認し合い、阿久比町内を流れる川の終点とした。長い距離を歩き続けた達成感に満足して、握りこぶしを天高く突き上げ、友人と大きくガッツポーズ。不思議そうな顔をして、横目で私たちを見ていく車が何台も通り過ぎていく。南北を縦断するぶらり旅は、緑色だった田園風景が黄金色に変わり、のどかな風景を眺めながら、夏から秋への季節の移り変わりを充分楽しむことができた。次回につづく。



シリーズ

阿久比を歩く⑮



色づく 柿の実



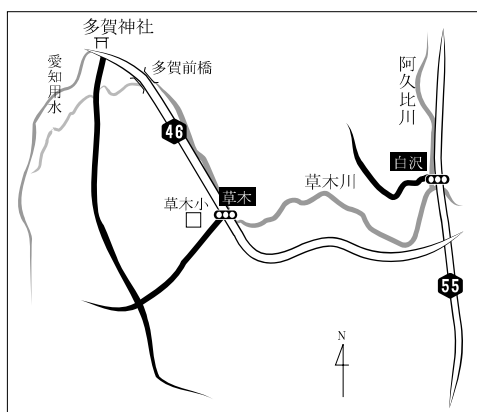
多賀前橋の欄干に埋め込まれたプレート



草木川と阿久比川の合流地点

今回のぶらり旅は草木川沿いを歩いた。
今日 十月十日は朝から雨が降ったり止んだり。友人との待ち合わせを一時遅らせ様子をうかがっていた。時間が経つにつれて雨は上がり何とか出発できそうになったので、傘を持って出かけることにした。
愛知用水路付近から水が流れ出て、川が始まっていたので、その場所からスタートした。
細い川は田んぼの間を流れ、農道の下をくぐると、竹林の間を蛇行して流れて行く。所どころ目に付く柿の木の実の色づき始め、秋の気配を感じさせる。
多賀前橋を渡ると川幅が広がり、本格的な川らしい姿が変わっていく。ほとんどの田んぼでは稲刈りが終わり、わらが積み重なった状態で残されている。川沿いの土手の彼岸花の時期はそろそろ終わりを迎え、川沿いから少し離れた場所にはコスモスの花が咲き始めている。
やがて草木川は阿久比川へと合流

あぐいぶらり旅
川沿いを歩く



する。勢よく流れる川をのぞきこんでいると、近くに住んでいると思われる高齢の男性が近づいてきて、「最近この川に手のひらくらいの大きさのハエ（川魚）が群れを成して上ってくるのを見るよ」と話しかけてきた。「毎年この時期に上ってくるんですか」と尋ねると「久しぶりに見たよ。子どもの時に見たきりだよ。川がきれいになったのかなあ」と笑いながら答えてくれた。この日ハエの姿を確認することはできなかったが、いい話が聞けてうれしい気持ちになった。
雨が降り出してきた。男心と秋の空というが本当に秋の天候は気まぐれだ。昨日、秋晴れの下レクリエーション大会が行われたのがまるで嘘のようだ。帰ることになった。（最近、妻が怒りっぽい。好物の甘栗でも買って帰ろう。）
次回につづく。

シリーズ

阿久比を歩く⑬



櫟（ゆずりは）池



川の流れが見え出した矢高橋



ぶらり歩いた前田川堤防

あぐいぶらり旅 川沿いを歩く

今回は前田川沿いをぶらり旅に出かけることにした。天気はくもり。暑くも寒くもなく、歩くにはちょうどいい気候。張り切って出かけた。いつものように地図で川の始流を探し、櫟（ゆずりは）池から旅を始める。

スタート地点から川沿いには、セイタカアワダチソウが勢いよく伸び、川の流れが見えないくらいになっている。群生はしばらく続き、矢高橋でようやく川の流れが見え出した。知多半島道路をくぐりぬけると、民家が見えてくる。北側前方には屋根の色から見て旧家が多く、古い町並みが続いている。

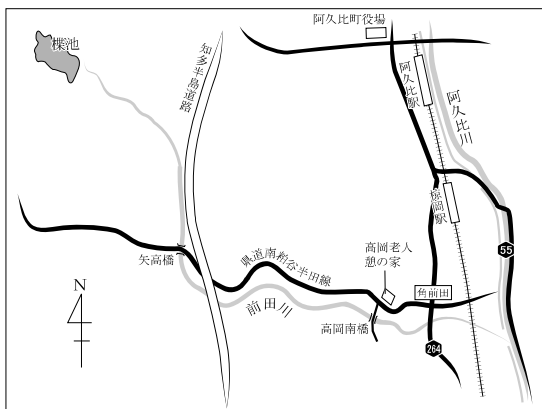
スズメが稲刈りの終わった田んぼで落穂を拾い、カラスが色づく柿の実を突っついてる。のどかな風景が、普段のせわしい生活を忘れさせてどこか落ち着いた気分にならせてくれる。夕方、太陽が沈みかけ西の空が夕焼けで真っ赤に染まるころ、眺める情景は、きつと素敵に映ることだろう。

高岡南橋の付近で自転車の練習をしている親子に出会う。自転車の補助輪が取れて道路へ出る前に、車の通りが少ないこの場所で練習をしているのだと思う。父親が娘に優しい声を掛けながら、乗り方を教えている姿は実にほほ笑ましい。

親子に軽く会釈をする。「こんにちは」と気持ちの良いあいさつが返ってくる。ぶらり旅をして一番うれしい瞬間（本当はぶらり旅をしている人ですかと、話しかけられたい。まだまだマイナーな私たち。）

県道に出ると車の通る音が聞こえ、つい先程までの静かな世界と一変する。大型店舗の横を通り阿久比川と合流する地点まで来た。東の方向を眺めると小高い丘の木々の葉が少し色付いて見えた。

次回につづく。



シリーズ

阿久比を歩く⑪



舗装されている川沿い



カワセミを探した場所



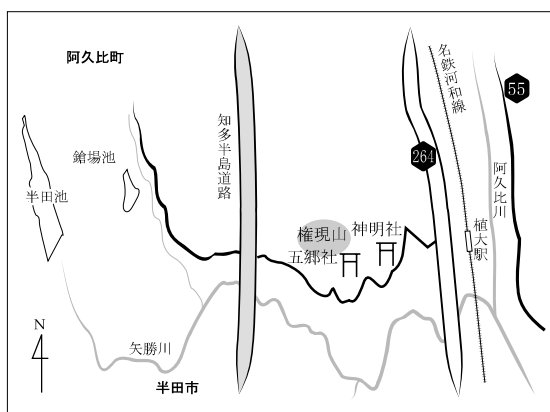
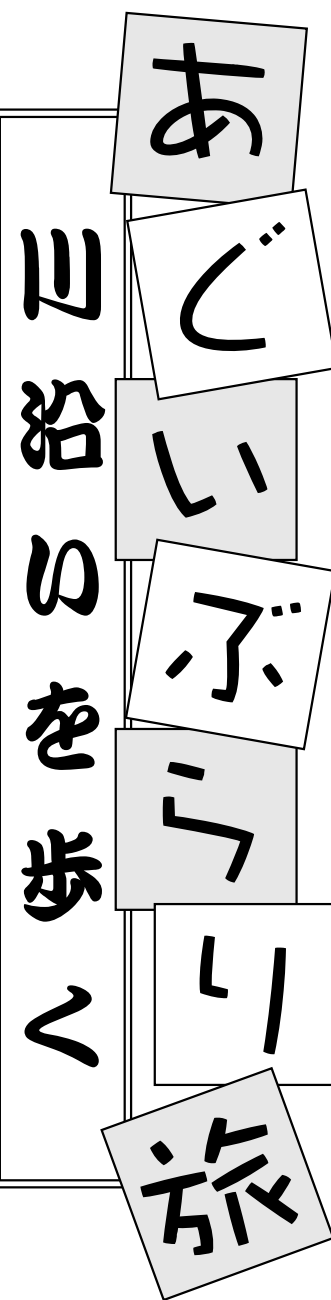
童話「ごんぎつね」の舞台となった権現山

今回は阿久比町と半田市の境界を流れる矢勝川沿いを歩いた。毎週のように土曜日になると雨の降る日が続いたが今日は久しぶりのいい天気。

スタート地点の半田池のほとりから西の方角にくっきりと鈴鹿山脈が見える。山の頂にはまだ雪はないがこの原稿が皆さんに読まれるころには多分うっすらと雪化粧していることだろう。

遠くに見える山を背にしてぶらり旅を始めた。川の流れは昨日の雨で少し増水し、濁っている。小高い丘にはミカン畑が広がり、ちょうど食べごろに色づいたミカンが鈴なりになっている。

望遠レンズ付きのカメラを持った一人の男性と出会う。『何を撮っているんですか』と尋ねると、『カワセミを撮りにね。だけど今日はダメ。来ていないみたい』と答えてくれた。私たちもぜひカワセミの姿を見たいと思い、しばらく静かに身を潜め待っていたが、残念ながら現れてく



れない。川の土手には白や黄色のチヨウが飛び交っていた。

知多半島道路の少し手前くらいから、川沿いは舗装された道路に変わり、サイクリングやジョギングを楽しむ人たちが多くすれ違うようになる。

北前方には、新美南吉の童話「ごんぎつね」の舞台となった権現山が見える。童話の中で「兵十」が病気の母親に食べさせるために捕まえたウナギを「ごん」がいたずらして、口にくわえて逃げて行ったのがこの辺りなのかと思う、振り向いて川をのぞこうとすると、目の前をウナギではなく、ヘビがニョロニョロと草むらの中に消えていった。

「川沿いを歩く」の連載は今回で終了します。次回からは「阿久比の史跡を巡る」を連載します。